松江商工会議所

地域経済季報

令和7年7～9月期

総評 今期、建設業は、公共工事が底堅く推移し、景気を下支えしたが、猛暑に伴う熱中症対策の強化による追加コストや作業効率の低下といった課題が浮彫になった。製造業は、米国による関税引き上げや海外向け機械需要の鈍化により厳しい状況が継続している。小売業では、衣料品は残暑の影響で秋物への切り替えが遅れ、物価高による買い控えも重なり収益を圧迫した。スーパーでは猛暑により来店傾向が日中から夕方へシフトし、米や卵など高値が続く品目もあり、消費者の節約志向が見られた。飲食業は8月は好調だったものの、9月は猛暑と物価高により集客に苦戦した。旅館・ホテル業や特産品も万博の影響などにより宿泊者数が伸び悩んだことで低調であったが、連続テレビ小説の放映を機に、需要回復が期待される。

来期も、長引く物価高騰による消費者の節約志向の強まりや、原材料費やエネルギー価格の高騰が引き続き経営を圧迫すると予想。特に、労働集約型の産業を中心に、11月からの最低賃金の引上げがさらなる人件費の負担増を招くことが強く懸念される。一方で秋の行楽シーズンに向けては、イベントや催事による人流の活発化、観光客の増加、そして当地を舞台にした朝の連続テレビ小説の影響など、回復に向けた期待材料も散見される。

		前期状況（4～6月期）	今期状況（7～9月期）	来期見通し（10～12月期）	調査事業所のコメント
建設業		→	→	→	今期は、公共工事請負金額が2カ月連続で前年を上回るなど底堅い動きとなった。猛暑を受け、熱中症対策の強化が不可欠であり、休憩体制の確保や水分補給設備の整備が進む一方、作業効率の低下や追加コストの発生が課題。また、働き方改革の進展により、労務管理の適正化や休日確保が進むなど職場環境の改善が見られる一方、施工体制の確保が依然として課題であり、受注活動に影響を及ぼす場面もみられる。
製造業		→	→	→	今期は米国による鉄鋼・アルミへの関税引き上げによる鋼材価格の高止まりや前期から続く海外向け機械需要の鈍化により厳しい状況が継続。来期は最低賃金の上昇に伴う人件費上昇が深刻な課題であり、製造現場の合理化・省力化や適正な価格転嫁への対応が求められる。秋から冬にかけては全国的に商談会・展示会が開催されるなど、新規顧客獲得の機会が増加傾向にあり、各社の取組に期待する。
卸売業		→	↗	→	今期は、小売業からの引き合いを受けて幅広い商品の取扱いが堅調に推移したほか、一部では10月のWindows10サポート終了に向けパソコンの更新需要が高まっており、これを機に生産性向上につなげようとする動きがあるため、一般機械器具卸売業において製品やサービスの相談が増加している。 来期は、前期から続く猛暑や天候不順で生鮮品の生育が不安定であり、品目によっては高値が続くことが予想され、消費者の買い控えが懸念される。
小売業	衣料品	↘	↘	→	今期は、残暑の影響で夏物販売が継続した一方、秋物への切り替えが遅れ、在庫調整に苦慮した。物価上昇による買い控えや需要の停滞に加え、販売単価の引き上げが難しく、収益が圧迫されている。賃金など経費の上昇を売上増で吸収できず、かといって価格転嫁を進めると販売減少を招くというジレンマにも直面。さらに、消費者ニーズの変化への対応が遅れ、資金繰りの悪化も見られる。来期は商品構成や販売戦略の見直し、経費抑制などへの取り組みが求められる。
	家電	→	→	→	今期は、記録的な猛暑であったにもかかわらずエアコンについては例年並み。買い替え需要には一定の落ち着き感がでている。冷蔵庫、洗濯機等の白物家電についても例年に比べて売れ行きが悪かったため、今後は顧客の高齢化に伴いテレビ等も含めた家電のダウンサイジング需要が高まるものと予想している。 来期は、10月開催の合同展示即売会を皮切りに、安心安全な空調であるエアコンの販売は勿論のこと、年末に向けて動きが高まるクリーナー（掃除機）やテレビ等の需要も確実に押さえていきたい。
	自動車	↗	↘	↗	今期は、メーカーにより状況は異なるものの、夏時分の新型車投入が少なかったことと、物価上昇による消費マインドの弱さが目立っており、総じて新車登録台数若干減少。 来期については、秋から冬にかけて販売台数を伸ばしそうな新型車が多く発売されることから、新車の需要は底堅く、販売台数は伸びるものと予想。
	スーパー	↘	↘	→	今期は猛暑の影響で、日中よりも夕方の時間帯に来店が集中するなど、来店傾向に変化がみられ、お盆や週末は記録的な猛暑や大雨により例年と比べ売上が低調に推移。米や卵は高止まりが続く一方、サンマは好漁で価格が安定。牛肉価格の高騰を受け、豚肉・鶏肉への需要が増加し、総菜の売れ行きも好調であった。来期は10月の約3,000品目の食料品の値上げや原材料・物流費の上昇を背景に、消費者の節約志向の強まりを懸念する。
	特産品	→	→	↗	今期はインバウンド観光客が増加している一方で、大阪・関西万博の影響や猛暑による人出の減少により、観光客数は例年を下回り、売上は低調に推移している。後半には、NHK連続テレビ小説「ばけばけ」放映前の話題性が広がり、小泉八雲関連商品の動きが徐々にみられ、行楽シーズンを迎える来期の販売拡大が期待される。
サービス業	飲食	→	→	→	今期は、夏休みシーズンの8月は客入り好調の店舗が多かったが、一転して9月は低調に推移し、猛暑や物価高も相まって収益確保に苦戦した。 来期は、観光・イベントシーズンを迎えることから期待を寄せるものの、特にパート・アルバイトを抱える店舗は最低賃金引き上げに伴う賃金改定の対応を余儀なくされ、年末に向けた人手確保と合わせて、厳しい状況に直面している。
	旅館・ホテル	→	→	↗	今期は、万博への旅行集中や、万博から松江への誘客不足等により宿泊者数が伸び悩んだ。来期は、NHK連続テレビ小説「ばけばけ」放映を機に松江の需要増が見込まれ、回復傾向が期待される。一方、11月17日から最低賃金が上がること、食材など物価上昇により収益を圧迫すると思われる。
	運輸・旅客	↘	↗	→	今期は、夏季需要の高まりにより旅客運送が順調に推移。観光や帰省需要が後押しとなった。一方で、慢性的な人手不足が続いており、特に若手人材の確保が喫緊の課題となっている。運送業では、物流量の回復の兆しが見られるが、燃料費や人件費の高騰が続いており、収益面では依然として厳しい状況。タクシー業界など認可制の料金体制では、最低賃金の大幅な引き上げによる影響が見込まれる。 来期については、先行き不透明感や燃料費の高騰の継続が懸念される。

※売上の前年同期比について↗→↘により表しています。